

3. 琵琶湖沿岸

太田滋規

琵琶湖の沿岸帯は、様々な地形で形成されており、それぞれの沿岸帯にはその環境に適応した多様な水生動植物が生息・繁茂し、水域ごとに特徴的な生態系が構築されている。

沿岸帯は種々の魚類の繁殖育成の場として重要な水域であるが、湖岸の人為的な改変や水位操作等により環境が変わり、また、オオクチバスやブルーギルの繁殖等により、生態系が変化しつつある。

本調査は沿岸帯の魚類等の生息状況を把握することと、「平成6～7年度 琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査」（以下前回調査）と比較することを目的として行った。

(1) 調査地点

調査地点は調査漁具の使い分けにより、ヨシ群落内等の沿岸部と水深5m程度の沿岸帯沖合部にそれぞれの区域に1ヶ所ずつ設定した（図1）。各地点の特徴は次のとおりである。

①ヨシ群落等沿岸部

湖北町延勝寺地先

北湖の北東岸に位置するヨシ群落。天然のヨシ群落が発達しており、湖底は砂泥質である。沖合には通称奥の洲と呼ばれる浅水域が広がる。夏期にはヒシやクロモ、ヒロハノエビモ等の沈水植物が大繁茂する。

彦根市八坂町地先

北湖の東岸に位置する、犬上川の河口にある水産試験場の港湾付近。港湾の堤防により、波浪は遮られているが、開放的な水域である。湖底は砂質で、コカナダモ等が繁茂する。

近江八幡市牧町地先

北湖の南東岸に位置するヨシ群落。この水域にはニゴロブナやホンモロコの産卵・発育を助長するための大規模増殖場が造成されている。この施設の岸側には天然のヨシ群落が発達していたが、近年、衰退気味で、ヨシ帯造成が行われている。沖方向には離岸堤、浮産卵床、消波堤が設けられており、波浪は少なく、静穏な半閉鎖的な水域である。湖底は泥質である。夏場にはスズメノヒエが大繁茂し、このため、夏期調査では漁具の設置が困難となり、東側にある長命寺地区（津田町）のヨシ帯造成地へと変更した。この場所はヨシ帯の造成以前は波浪の影響を受けやすい場所であったが、ヨシ帯造成に伴い、沖に離岸堤とヨシ造成地を囲むように柵が設けられており、内部は静穏で半閉鎖的な水域となっている。湖底は泥質である。

大津市衣川地先

南湖の西岸に位置する山ノ下湾の中央部。比較的静穏な水域である。岸側はヨシ群落で、

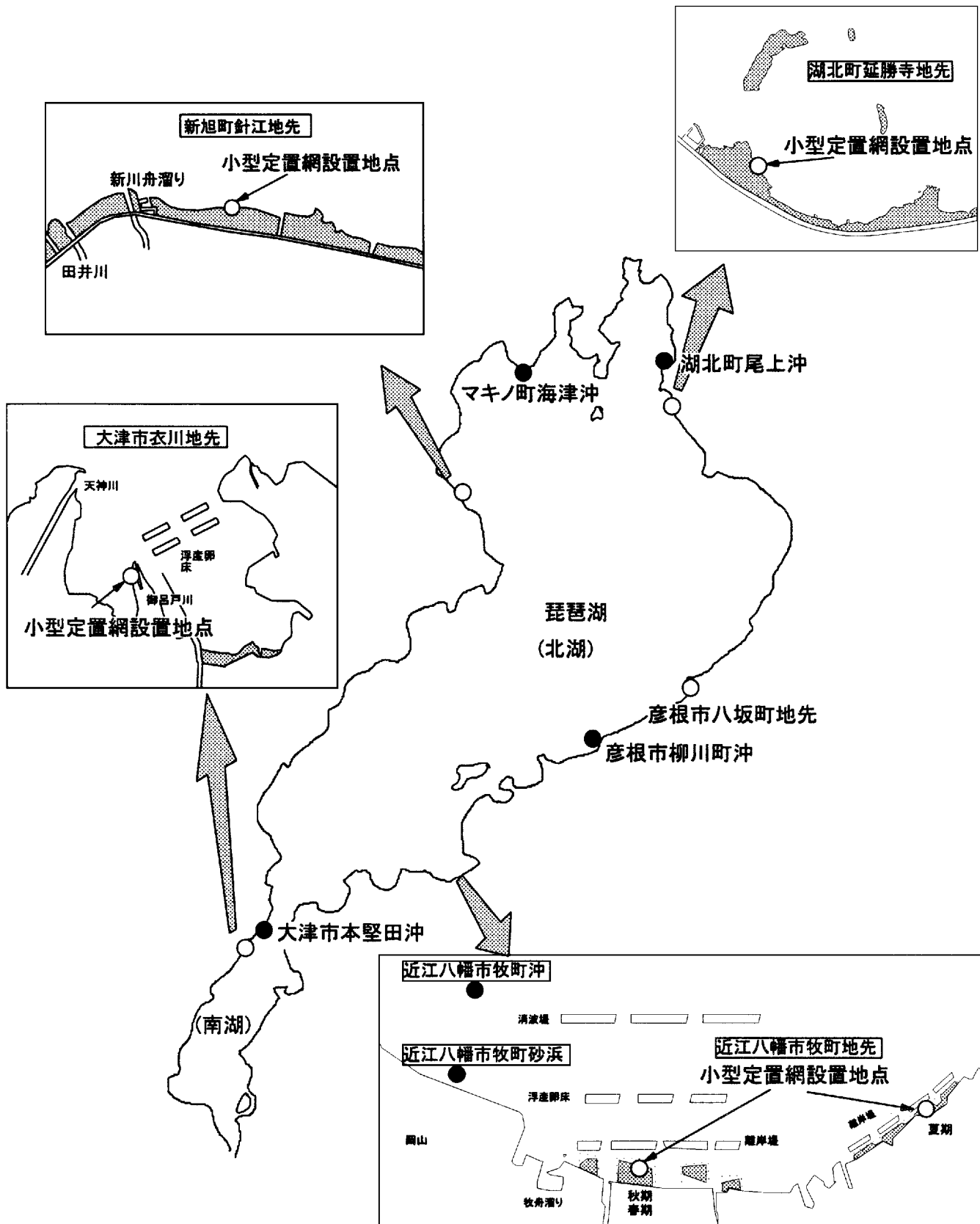


図1 調査地点 ○小型定置網設置地点 ●小型沖曳網曳網地点

ヒシ、スズメノヒエ、コカナダモ等が繁茂し、水が滞留しやすい。湖底は泥質である。

新旭町針江地先

北湖北西岸に位置する発達した天然のヨシ群落。比較的開放的なヨシ群落である。湖底は砂質である。

②沿岸帯沖合部

湖北町尾上沖

北湖の北東岸に位置する尾上漁港の北側。岸辺は石垣護岸で、湖底は砂～泥質である。夏期にはコカナダモ等の沈水植物が大繁茂する。

彦根市柳川町沖

北湖の東岸に位置する柳川漁港の沖合。岸辺は砂浜で、底質は砂質である。

近江八幡市牧町砂浜

北湖の南東岸に位置する牧水泳場の沖合。岸辺は砂浜で、湖底は砂質である。

近江八幡市牧町沖

上記の牧町砂浜の沖合。湖底は泥質である。

大津市本堅田沖

南湖北西岸に位置する浮御堂の沖合。岸辺は石垣で、湖底は砂～砂泥質である。夏期にはクロモ、コカナダモ、センニンモ等の沈水植物が大繁茂する。

マキノ町海津沖

北湖の北端に位置する海津大崎の沖。非常に急峻で岸辺の岩壁が湖内へと続いている。湖底は大礫と岩石。

(2) 調査方法

ヨシ群落内等の沿岸部には設置、回収の容易な調査用小型定置網を用いた(図2)。小型定置網の設置時間は基本的に1昼夜とした。調査回数は、秋期、夏期および春期に1回ずつ計3回行った。

採捕魚は基本的に冷蔵で持ち帰り、鮮魚の状態を種を同定した後、それぞれの種の全体の重量を計り、尾数を計数した。その後、魚類については、大型のものは鮮魚で、小型のものは10%ホルマリンで保存した後、全長、体長および体重の測定を行った。甲殻類はホルマリン保存後、体重を測定した。体型測定は基本的に50尾を限度とした。

水深5m程度の沿岸帯沖合部には、小型沖曳網を用いた(図3)。この小型沖曳網は、琵琶湖漁法の一つである沖曳網を沿岸部調査用に小型化したものである。これはロープの先にアンカーのついたブイを投入し、それを基点に、片側約100mのロープを投入しながら調

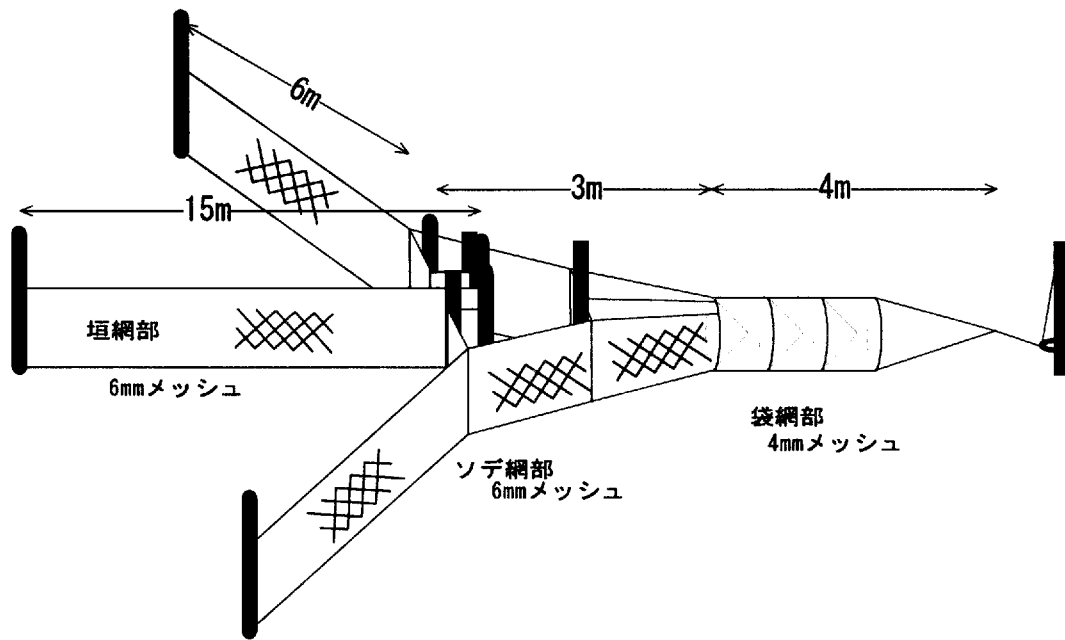


図2 調査用小型定置網

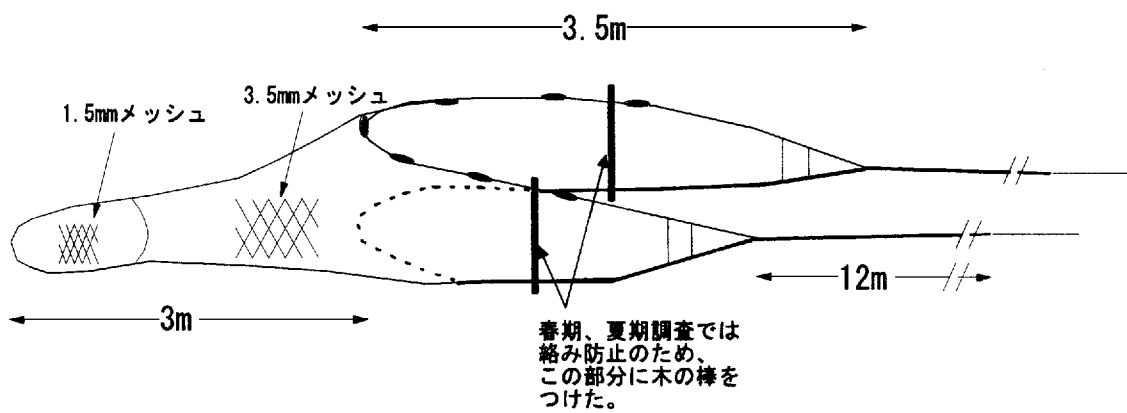


図3 調査用小型沖曳網

査水域に網を投入し、反転してもう片側のロープを投入しながら基点のブイにもどり、巻き揚げ機によりロープを引き上げる底曳網である。ロープの曳きははじめから、網が揚がるまで約10分を要した。採集地点の水深は網投入地点の水深とした。調査回数はそれぞれの地点で春期に1回、秋期に3回行った。採捕魚は、冷蔵、または現場で直ちに10%ホルマリンで固定して持ち帰り、種を同定した後、それぞれの種の全体の重量を計り、尾数を計数した。10%ホルマリンで保存した後、魚類については全長、標準体長および体重、甲殻類については体重を測定した。体型測定は基本的に50尾を限度とした。全長15mm以下のハゼ科の魚は種名が判別できなかったため、ハゼ科仔魚とした。

(3) 調査結果

1) 採捕魚種組成

① ヨシ群落等沿岸部

各地点の小型定置網の1日1統あたりの採捕尾数と採捕重量を表1に示した。以下各地点の採捕魚種組成について、この表を基に述べる。

湖北町延勝寺地先

3期の調査で魚類17種、甲殻類3種が採捕された。秋期には、ブルーギル(333尾) 小型定置網1日1統あたりの採捕尾数、以下同様)が多く採捕され、尾数でも重量でも大半を占めた。春期には、ホンモロコ(14尾)やゼゼラ(11尾)の他8種の在来種が多くを占め、スジエビ(1180尾)も多かった。夏期には、カネヒラ(171尾)が多く採捕されたが、オオクチバス(28尾)、ブルーギル(16尾)もやや多く採捕されている。この水域は、オオクチバス、ブルーギルも多く生息しているが、比較的、魚類相は複雑である。なお、ウシガエルの幼生(オタマジャクシ)が夏期に354匹(1349.3g)採捕された。

彦根市八坂町地先

3期の調査で魚類22種、甲殻類3種が採捕された。秋期には、アユ(567.3尾)、ブルーギル(425.7尾)、オイカワ(133.7尾)が多く採捕された。春期には、アユ(49尾)とスジエビ(3211尾)が多く採捕されており、魚類15種、甲殻類3種と採捕された種類数が多かった。夏期にはオオクチバス(25尾)、ブルーギル(22尾)が比較的多く採捕された。この地点の特徴的なことはアユの採捕尾数が多いことで、犬上川の河口部に近いためであると思われる。この水域はオオクチバス、ブルーギルも多く生息しているが、比較的魚類相は複雑である。

近江八幡市牧町地先

3期の調査で魚類8種、甲殻類3種が採捕された。秋期にはブルーギル(330尾)、テナガエビ(243尾)が多く採捕された。春期にはブルーギル(6尾)、オイカワ(3尾)、ヨシノボリ(9尾)、スジエビ(25尾)の4種しか採捕されなかった。夏期には、秋春期に調査地点とした場所はスズメノヒエが大繁茂しており、やむなく調査地点を変えたが、オオクチバス(8尾)、

表1 琵琶湖沿岸帯における小型定置網による1日1統あたりの採捕尾数と重量

地点	湖北町延壽寺						彦根市八坂町						近江八幡市牧町							
	秋期		春期		夏期		秋期		春期		夏期		秋期		春期		夏期			
最終時期	'02/11/08		'03/04/23		'03/08/20		'02/10/01-03		'03/05/09		'03/08/29		'02/10/25		'03/04/25		'03/08/22			
採集日	1		1		1		3		2		1		1		1		1			
漁具設置日数	1		1		1		3		1		1		1		1		1			
取り上げ回数	1		1		1		3		1		1		1		1		1			
漁具設置水深(m)	0.41		1.00		1.02		1.74		1.76		1.80		0.66		0.67		1.06			
表層水温(°C)	13.4		11.9		26.9		22.7(平均)		14.9		27.4		19.6		17.2		31.1			
	尾数(尾)		重量(g)		尾数(尾)		重量(g)		尾数(尾)		重量(g)		尾数(尾)		重量(g)		尾数(尾)		重量(g)	
ウナギ							0.3 41.2													
アユ			3 12.4		2 9.1		567.3 2289.3		49.0 304.0											
ビワマス																				
カワムツ							133.7 86.1		3.0 33.2				9 3.6		3 0.8					
オイカフ																				
ハス			1 1.7								1 1.2									
ウグイ									5.0 151.9											
ホンモロコ			14 115.0																	
モツゴ	13 73.1		4 32.6		8 19.8						1 7.4									
ビワヒガイ			5 34.4		2 4.7		1.0 3.1													
カマツカ									1.5 38.5											
ぜぜラ			11 30.2						0.5 0.9											
スゴモロコ									0.5 0.6											
ニゴイ	1 13.3																			
コイ									0.5 1331.8											
ニゴロブナ	4 63.6		1 38.4						1.0 78.7											
ゲンゴロウブナ													1 462.0							
ギンブナ							1.0 64.8													
フナ類雑魚					7 9.8				1.0 10.4		4 36.8		2 2.7							
ヤリタナゴ			1 11.2										1 5.0							
カネヒラ					171 285.9		1.0 8.9				16 72.6									
ナマズ					4 17.5				0.5 727.4											
カムルチー	1 891.3				3 2177.5								2 1640.0							
オオクチバス	17 156.5				28 140.9		9.3 325.0		0.5 42.7		25 165.7								8 4.3	
ブルーギル	333 4938.0		4 74.6		16 210.3		425.7 554.8		6.5 101.8		22 449.4		330 442.3		6 423.6		5 218.9			
ヨシノボリ			3 2.0		1 1.2		0.3 0.0		4.5 6.3		3 1.0		2 0.5		9 4.5					
ヌマチチブ							2.3 7.3		1.5 9.4		4 38.2									
イサザ			3 13.6						1.0 1.9											
ウキゴリ											2 6.0									
ウツセミカジカ																				
テナガエビ	46 102.1		2 3.5		1 2.1		61.0 117.8		0.5 0.6				243 129.0				3 1.1			
スジエビ	2 1.3		1180 363.6		2 0.6		11.3 4.6		3211.0 1318.1		57 308.0		3 0.4		25 6.9					
アメリカザリガニ	14 550.5		1 14.7				0.3 4.7		0.5 4.3				2 48.1				6 137.6			
魚類種数	6		11		10		10		14		9		6		3		2			
甲殻類種数	3		3		2		3		3		1		3		1		2			
魚類種数			16						21						7					
甲殻類種数			3						3						3					

地点	大津市衣川						新旭町針江					
	秋期		春期		夏期		秋期		春期		夏期	
採取時期	'02/10/30		'03/04/25		'03/08/22		'02/11/08		'03/04/23		'03/08/20	
採集日	1		1		1		1		1		1	
漁具設置日数	1		1		1		1		1		1	
取り上げ回数	1		1		1		1		1		1	
漁具設置水深(m)	0.65		1.83		1.78		0.40		1.50		1.27	
表層水温(°C)	12.9		14.2		30.2		14.6		11.8		27.6	
	尾数(尾)		重量(g)		尾数(尾)		重量(g)		尾数(尾)		重量(g)	
ウナギ												
アユ									4 13.0			
ビワマス									1 0.7			
カワムツ							1 1.2					
オイカフ									1 19.0			
ハス												
ウグイ												
ホンモロコ									1 6.3			
モツゴ												
ビワヒガイ											8 20.2	
カマツカ												
ぜぜラ												
スゴモロコ												
ニゴイ												
コイ												
ニゴロブナ			1 290.7								3 173.4	
ゲンゴロウブナ												
ギンブナ												
フナ類雑魚											17 84.5	
ヤリタナゴ												
カネヒラ							26 131.6				75 203.8	
ナマズ												
カムルチー												
オオクチバス					1 2.4		9 122.6				49 256.1	
ブルーギル	71 1027.8		4 109.8		8 233.7		3 4.4				24 335.1	
ヨシノボリ											1 4.4	
ヌマチチブ												
イサザ												
ウキゴリ							1 3.6				1 0.9	
ウツセミカジカ							1 1.2					
テナガエビ	5 5.2				7 6.8		16 25.1		15 3.5		144 135.7	
スジエビ											1023 403.1	
アメリカザリガニ							1 35.0					
魚類種数	1		2		2		6		4		7	
甲殻類種数	1		0		1		2		1		2	
魚類種数			3						13			
甲殻類種数			1						3			

ブルーギル(5尾)、テナガエビ(3尾)、アメリカザリガニ(6尾)の4種しか採捕されなかった。この水域は、ヨシ群落にもかかわらず種組成は貧弱であり、ブルーギル、オオクチバスの外来魚が優先している。

大津市衣川地先

3期の調査で魚類3種、甲殻類1種が採捕された。秋期にはブルーギル(71尾)が多く採捕され、魚類ではこの1種のみであった。甲殻類はテナガエビが5尾採捕されただけであった。春期にはブルーギル4尾とニゴロブナ1尾しか採捕されなかった。夏期にはブルーギル8尾とオオクチバス1尾、テナガエビ7尾しか採捕されなかった。この水域は、ヨシ群落や沈水植物が繁茂しているが、魚類組成は貧弱で、ブルーギル1種に単純化していると思われた。なお、秋期にはイシガメ1匹(230g)、クサガメ8匹(4405g)、アカミミガメ1匹(1545g)、夏期にはアカミミガメ1匹(553g)、クサガメ1匹(1450g)が採捕された。

新旭町針江地先

3期の調査で魚類14種、甲殻類3種が採捕された。秋期にはカネヒラ(26尾)が多く採捕された。春期には1尾ずつではあるがビワマス、ホンモロコが採捕された。夏期にはカネヒラ(75尾)、テナガエビ(144尾)、スジエビ(1023尾)が多く採捕されたが、オオクチバス(49尾)、ブルーギル(24尾)もやや多い。この水域は季節によって採捕される魚種が異なり、比較的魚類相は複雑である。

②沿岸帯沖合部

各地点の小型沖曳網の1曳網あたりの採捕尾数と採捕重量を表2に示した。以下各地点の採捕魚種組成について、この表を基に述べる。

湖北町尾上沖

2期4回の調査で魚類8種、甲殻類2種が採捕された。夏期の調査ではヨシノボリ(392尾)、ヌマチチブ(13尾)、ウキゴリ(81尾)のハゼ科魚類が多く採捕された。秋期の調査では'02年9月の調査でビワヒガイが12尾採捕された他は採捕尾数は少なかった。

彦根市柳川町沖

2期4回の調査で魚類8種、甲殻類2種が採捕された。夏期調査では採捕量は少なく、ヨシノボリが33尾と比較的多く採捕された。秋期調査では'02年9月の調査でヨシノボリ(2851尾)、ヌマチチブ(2121尾)、スジエビ(1303尾)が多く採捕された。'03年9月の調査ではヨシノボリ(105尾)、スジエビ(105尾)が多く採捕された。

近江八幡市牧町砂浜

2期4回の調査で魚類10種、甲殻類2種が採捕された。夏期調査ではヨシノボリ(53尾)が多く採捕された他、ホンモロコ、ビワヒガイ、ゼゼラ、スゴモロコといったコイ科魚類が尾数は少ないが採捕された。秋期調査では'02年9月の調査でヨシノボリ(205尾)、ブルーギル(69尾)、ヌマチチブ(44尾)が多く採捕された。

表2 琵琶湖沿岸帯における小型沖曳網による1曳網あたりの採捕尾数と重量

地点	湖北町鳳上沖				彦根市柳川町沖					
	秋期	夏期	秋期	秋期	秋期	夏期	秋期	秋期		
採取時期										
採集日	'02/09/04	'03/06/27	'03/09/01	'03/10/21	'02/09/03	'03/06/26	'03/09/02	'03/10/20		
漁具投入水深(m)	4.1	5.3	5.0	4.7	5.6	5.6	5.2	5.6		
表層水温(°C)	28.2	22.7	29.3	19.4	27.2	22.3	28.2	19.7		
	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)		
ワカサギ										
アユ										
オイカワ										
ハス							1	0.7		
ホンモロコ		1	0.05							
ビワヒガイ	2	9.9	8	17.14	12	24.87	1	4.81		
カマツカ					1	0.64	2	0.07		
ぜぜラ										
スゴモロコ										
フナ類稚魚		1	0.57							
オオクチバス	6	20.39		3	14.19	5	88.47	1	2.37	
ブルーギル	1	0.61						7	0.9	
ヨシノボリ		392	161.42			2851	160.53	33	1.398	
ヌマチチブ		13	17.22			2121	116.9	6	0.2	
ウキゴリ		81	12.16					4	0.17	
ハゼ科仔魚		5	0.1	1	0.02	17	0.155	21	0.38	
ヌマエビ								406	8.66	
テナガエビ			1	0.67						
スジエビ	2	0.01	161	30.92	4	1.05	1	0.03	1303	69.85
魚類種数	3		6		3		2		4	
甲殻類種数	1		2		1		1		1	
魚類種数			8						7	
甲殻類種数			2						1	

地点	近江八幡市牧町砂浜				近江八幡市牧町沖				
	秋期	夏期	秋期	秋期	秋期	夏期	秋期	秋期	
採取時期									
採集日	'02/09/03	'03/06/26	'03/09/02	'03/10/20	'02/09/03	'03/06/27	'03/09/02	'03/10/20	
漁具投入水深(m)	1.1	1.9	1.8	2.2	4.5	5.3	5.5	5.4	
表層水温(°C)	27.8	22.7	29.0	19.9	27.2	22.1	29.0	19.5	
	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	
ワカサギ						5	1.2		
アユ									
オイカワ	6	0.31							
ハス									
ホンモロコ			1	0.025					
ビワヒガイ	1	2.54	1	0.05		2	0.14		
カマツカ									
ぜぜラ			6	10.53		4	1.31		
スゴモロコ	1	0.62	1	0.3					
フナ類稚魚					1	0.12			
オオクチバス		6	7.65	11	91.89		6	1.77	
ブルーギル	69	24.9	6	32.74				5	171.9
ヨシノボリ	205	17.541	53	2.332		2	0.47	1	48.02
ヌマチチブ	44	2.953			1	0.03	1315	94.59	
ウキゴリ			12	3.86		332	39.67	2	0.1
ハゼ科仔魚	23	0.36	9	0.083	1	0.03	9	0.1	
ヌマエビ	1	0.03						1	0.22
テナガエビ								612	6.95
スジエビ	32	0.9	1	0.07	1	0.18	3	0.14	
魚類種数	6		8		2		2		
甲殻類種数	2		1		1		1		
魚類種数			10					8	
甲殻類種数			2					1	

地点	大津市本堅田沖				マキノ町海津沖					
	秋期	夏期	秋期	秋期	秋期	夏期	秋期	秋期		
採取時期										
採集日	'02/09/03	'03/06/26	'03/09/02	'03/10/20	'02/09/04	'03/06/27	'03/09/01	'03/10/21		
漁具投入水深(m)	3.1	1.9	2.2	1.6	9.0	4.8	4.4	13.2		
表層水温(°C)	27.7	22.0	29.3	19.9	28.0	22.8	28.3	19.5		
	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)		
ワカサギ						365	162.27			
アユ										
オイカワ										
ハス										
ホンモロコ										
ビワヒガイ							1	15.92		
カマツカ					1	14.8				
ぜぜラ										
スゴモロコ										
フナ類稚魚										
オオクチバス		13	149.7	1	0.83	12	95.61	1	12.48	
ブルーギル		38	253.72	24	0.49	51	513.39			
ヨシノボリ		5	0.116					30	1.84	
ヌマチチブ						95	10.91			
ウキゴリ						19	4.42			
ハゼ科仔魚		11	0.158	6	0.043				10	0.223
ヌマエビ						2	0.2			
テナガエビ										
スジエビ					7	1.25	485	78.53		
魚類種数		3		3		2		3		
甲殻類種数		0		0		1		2		
魚類種数			3					7		
甲殻類種数			0					2		

近江八幡市牧町沖

2期4回の調査で魚類8種、甲殻類1種が採捕された。夏期調査では採捕量は少なく、オオクチバス、ブルーギル、ヨシノボリ、スジエビが採捕された。秋期調査では'02年9月の調査でヨシノボリ(1315尾)、ヌマチチブ(332尾)が多く採捕された。'03年9月の秋期調査ではハゼ科仔魚とともにノロが混じって採捕された。

大津市本堅田沖

2002年9月の調査では沈水植物が多く曳網できず、その後の調査は改良小型沖曳網により曳網できたが、2期3回の調査でオオクチバス、ブルーギル、ヨシノボリの魚類3種しか採捕されず、甲殻類の採捕はなかった。夏期調査ではブルーギル(38尾)、オオクチバス(13尾)、ヨシノボリ(5尾)が採捕された。秋期調査では'03年9月の調査でブルーギル(24尾)、オオクチバス(1尾)が採捕され、'03年10月の調査でブルーギル(51尾)、オオクチバス(12尾)が採捕された。なお、'03年10月の秋期調査で採捕されたオオクチバスは非常に痩せていた。

マキノ町海津沖

2期4回の調査で魚類7種、甲殻類2種が採捕された。夏期調査ではワカサギの稚魚(365尾)とスジエビ(485尾)が多く採捕された。秋期調査では'02年9月の調査でヌマチチブ(30尾)、'03年9月の調査でオオクチバス(20尾)が比較的多く採捕された。

2) 前回調査との比較

今回の調査地点と前回調査での調査地点で、同じ調査漁具を使用し、同じ調査地点に該当するものは表3のとおりである。

表3 調査地点の対比

調査漁具	'02~'03調査地点	'94~'95調査地点
小型定置網	湖北町延勝寺地先	該当なし
小型定置網	彦根市八坂町地先	該当なし
小型定置網	近江八幡市牧町地先	牧(ヨシ群落内) Stn.9
小型定置網	大津市衣川地先	山ノ下(ヨシ群落内) Stn.12
小型定置網	新旭町針江地先	新旭(ヨシ群落内) Stn.18
小型沖曳網	湖北町尾上沖	尾上(砂浜前面) Stn.21
小型沖曳網	彦根市柳川町沖	該当なし
小型沖曳網	近江八幡市牧町砂浜	岡山(砂浜前面) Stn.7
小型沖曳網	近江八幡市牧町沖	岡山(沖) Stn.8
小型沖曳網	大津市本堅田沖	堅田(石垣前面) Stn.13
小型沖曳網	マキノ町海津沖	海津(岩場前面) Stn.20

ヨシ群落等沿岸部

ヨシ群落等沿岸部での今回調査と前回調査での同調査地点での採捕尾数を時期別に小型定置網1日1統あたりにまとめたものを表4に示す。以下この表に基づき比較を行う。

近江八幡市牧町

前回調査では春期、夏期の3回の調査で魚類13種、甲殻類4種が採捕されているが、今回の調査では魚類7種、甲殻類3種と種類数は大幅に減少している。前回調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種は、モツゴ、ニゴイ、コイ、タイリクバラタナゴ、カネヒラ、ヌマチチブ、ウキゴリ、ヌマエビであった。逆に今回調査で採捕されたが、前回調査で採捕されていない種は、カムルチーであった。なお、前回調査は春期と夏期の調査であるため、今回の同時期の調査と採捕尾数の比較を行うと、前回調査では多く採捕されていたヤリタナゴ、タイリクバラタナゴのタナゴ類が採捕されず、エビ類も減少している。

大津市衣川町

前回調査では春期、夏期、秋期、冬期の4回の調査で魚類14種、甲殻類3種が採捕されているが、今回の調査では魚類3種、甲殻類1種と種類数は大幅に減少している。前回調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はアユ、オイカワ、ハス、ウグイ、モツゴ、カマツカ、スゴモロコ、コイ、カネヒラ、ヨシノボリ、ヌマチチブ、スジエビ、アメリカザリガニであった。今回の調査では魚類ではほとんどがブルーギル、甲殻類ではテナガエビしか採捕されておらず、テナガエビの尾数も激減しており、魚類相がブルーギル1種に単純化している。

新旭町針江

前回調査では春期、夏期、冬期の5回の調査で魚類16種、甲殻類3種が採捕されているが、今回の調査では魚類13種、甲殻類3種と種類数は若干減少した。前回調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はアブラハヤ、モツゴ、コイ、シロヒレタビラ、スジシマドジョウ、ヨシノボリであった。逆に今回調査で採捕されたが、前回調査で採捕されていない種は、ピワマス、カワムツ、ホンモロコであった。なお、前回調査は春期と夏期の調査であるため、今回の同時期調査と採捕尾数の比較を行うと、オイカワ、カネヒラ、テナガエビが減少しており、フナ類、オオクチバス、ブルーギルは増加している。

沿岸帯沖合部

水深5m程度の沖合部での今回調査と前回調査での同調査地点での採捕尾数を時期別に1曳網あたりにまとめたものを表5に示す。以下この表に基づき比較を行う。

湖北町尾上沖

前回調査では秋期と冬期の2回の調査で魚類5種、甲殻類2種が採捕されているが、今回の調査では魚類8種、甲殻類2種と種類数は増加した。前回調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はヌマエビで、逆に今回調査で採捕されたが、前回調査で採捕されていない種は、ホンモロコ、フナ類、ウキゴリ、テナガエビであった。今回の調査と同時期であるのは秋期のみで、秋期の尾数の比較を行うとピワヒガイ、ブルーギルは減少し、オオクチバスは増加している。

表4 沿岸帯小型定置網調査の「平成6～7年度琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査」との比較

調査場所 調査時期 調査回数	近江八幡市牧町					天津市衣川					新旭町針江							
	'94～95		'02～03			'94～95			冬期	'02～03		'94～95			'02～03			
	春期	夏期	春期	夏期	秋期	春期	夏期	秋期		春期	夏期	秋期	春期	夏期	冬期	春期	夏期	秋期
ウナギ																		
アユ						1		7	1					4.7	3		4	
ビワマス																1		
カワムツ																		1
オイカワ	50	57.5		3	9				1				20	29.7	15	1		
ハス									6									
ウグイ									5									
アブラハヤ														0.7				
ホンモロコ																1		
モツゴ	9								1				37	0.7	3			
ビワヒガイ													7	23.0			8	
カマツカ						3												
ゼゼラ																		
スゴモロコ									3	10								
ニゴイ		0.5																
コイ		0.5						1						0.3				
フナ類	1	2.0			3	2	5					1	4	2.7	1		20	
ヤリタナゴ	61				1													
タイリクバラタナゴ	136	1.0																
シロヒレタビラ														6.3				
カネヒラ		2.5						1					188	1.7			75	26
スジシマドジョウ														0.3				
ナマス																		
カムルチー					2													
オオクチバス	1	3.0		8			50	5	5		1			12.3			49	9
ブルーギル	70	1.5	6	5	330	2	3	11	50		4	8	71	15	5.3		24	3
ヨシノボリ	5	0.5	9		2		1								4.0	5		
ヌマチチブ	3						4						5	1.3			1	
イサザ																		
ウキゴリ		0.5											4	1.3			1	1
ウツセミカジカ													2		4			1
ヌマエビ	1																	
テナガエビ	91	9.0		3	243	28	137	592	236			7	5	1106	44.3	5	144	16
スジエビ	178		25		3	1	4	4	22					6	1289.3	6	15	1023
アメリカザリガニ	17	0.5		6	2	1	160	18	6					6	0.3			1
魚類種数	9	10	3	2	6	4	7	4	8	2	2	1	9	15	6	4	7	6
甲殻類種数	4	2	1	2	3	3	3	3	3	0	1	1	3	3	2	1	2	2
魚類種数		13		7			14				3			16			13	
甲殻類種数		4		3			3				1			3			3	

・小型定置網1日1統あたりの採捕尾数

・ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ギンブナおよびフナ稚魚はフナ類として集計した。

表5 沿岸帯小型沖曳網調査の「平成6～7年度琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査」との比較

調査場所	湖北町馬場上沖				近江八幡市牧町砂浜				近江八幡市牧町沖				大津市本堅田沖			マキノ町海津沖									
	'94～95		'02～03		'94～95		'02～03		'94～95		'02～03		'94～95		'02～03		'94～95		'02～03						
	秋期	冬期	夏期	秋期	夏期	秋期	冬期	夏期	秋期	夏期	秋期	冬期	夏期	秋期	冬期	夏期	秋期	冬期	夏期	秋期					
調査回数	1	1	1	3	2	3	1	1	3	2	3	1	1	3	1	1	2	1	1	1	1/1	3			
ワカサギ													5									365			
アユ					0.5	0.7																			
オイカワ					1.5				2.0	2.0															
ホンモロコ			1					1			0.7														
モツゴ																									
ビワヒガイ	19		8	5.0	19.5	3.0		1	0.3					2.3								0.3			
カマツカ					1.5	0.3				0.5	7.7												0.3		
ゼゼラ							1	6																	
スゴモロコ					2.0	1.0		1	0.7	1.5	1.0														
デメモロコ											0.7														
ニゴイ					1.0						1.3														
フナ類			1																			1			
カネヒラ						0.3																			
オオクチバス	1			4.7	1.5	2.7		6	3.7		0.7		6	1.7		13	6.5		13				7.0		
ブルーギル	4	1		0.3	0.5	13.7		6	23.0		0.3		1	0.7		6	38	37.5		7	7	1	3.0		
ヨシノボリ	4	3	392		38.5	4.0		53	68.3	70.0	68.7	7	2	445.0			5						95	10.0	
ヌマチチブ	3		13		3.5	7.3			15.0		3.7			110.7											
ウキゴリ			81		28.0			12					1										19		
ハゼ科仔魚			5	0.3				9	11.0					223.7		11	3.0							3.3	
ヌマエビ	31					3.0			0.3															2	
テナガエビ			1		1.0	17.3					12.7														
スジエビ	2	4	161	2.3	289.5	103.3		1	12.0	9.0	41.0	2	16	11.0								155		485	2.3
魚類種数	5	2	6	4	11	9	1	8	7	4	11	1	5	6	1	3	3		6	2	1		3	5	
甲殻類種数	2	1	2	1	2	3	0	1	1	1	2	1	1	1	0	0	0		1	0	0		2	1	
魚類種数	5		8			13		10			12		8		1	3				6				7	
甲殻類種数	2		2			3		2			2		1		0	0				1				2	

・小型沖曳網1曳網あたりの採捕尾数
 ・ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ギンブナおよびフナ稚魚はフナ類として集計した。

近江八幡市牧町砂浜

前回調査では夏期、秋期、冬期の6回の調査で魚類13種、甲殻類3種が採捕されているが、今回の調査では魚類10種、甲殻類2種と種類数は若干減少した。前回調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はアユ、カマツカ、ニゴイ、カネヒラ、テナガエビであった。逆に今回調査で採捕されたが、前回調査で採捕されていない種は、ホンモロコであった。今回の調査時期である夏期と秋期のみで合計尾数の比較を行うとビワヒガイ、ウキゴリ、スジエビが減少しており、オオクチバス、ブルーギル、ヨシノボリが増加している。特にスジエビが激減している。

近江八幡市牧町沖

前回調査では夏期、秋期、冬期の6回の調査で魚類12種、甲殻類2種が採捕されているが、今回の調査では魚類8種、甲殻類1種と種類数は減少した。前回調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はオイカワ、ホンモロコ、カマツカ、スゴモロコ、デメモロコ、ニゴイ、テナガエビであった。逆に今回調査で採捕されたが、前回調査で採捕されていない種は、ワカサギ、ウキゴリであった。今回の調査時期である夏期と秋期のみで合計尾数の比較を行うとビワヒガイ、ゼゼラ、ヨシノボリが減少しており、オオクチバス、ブルーギル、ヌマチチブが増加している。

大津市本堅田沖

前回調査では冬期1回のみしか調査されておらず、ブルーギル1種のみが採捕されている。今回の調査ではオオクチバス、ブルーギル、ヨシノボリの3種が採捕された。前回調査と今回の調査で同時期の調査は行われていないため、比較はできないが、両調査ともに採捕された尾数は少なく、魚類相は非常に貧弱であった。

マキノ町海津沖

前回調査では夏期、秋期、冬期の3回の調査で魚類6種、甲殻類1種が採捕されているが、今回の調査では魚類7種、甲殻類2種と種類数はほぼ変わらない。前回調査で採捕されているが、今回調査で採捕されなかった種はモツゴ、フナ類、ヌマチチブであった。逆に今回調査で採捕されたが、前回調査で採捕されていない種は、ワカサギ、ビワヒガイ、カマツカ、ウキゴリであった。特にワカサギが今回の夏期調査で多く採捕された。今回の調査時期である夏期と秋期のみで合計尾数の比較を行うとオオクチバス、ブルーギルが減少しており、ヨシノボリ、スジエビが増加している。